

報告

バリアフリー 2013

川村義肢株式会社 内山 未花

1. はじめに

2013年4月18日(木)～20日(土)に第19回高齢者・障がい者の快適な生活を提案する総合福祉展バリアフリー2013¹⁾(以下、バリアフリー展)がインテックス大阪で開催された。この催しは、様々な福祉機器の展示・セミナー・ワークショップが行われる西日本最大規模の福祉機器展である。

2. 報告

バリアフリー展は、福祉車両や車いすなどの移動機器のブース、ベッド・マット、入浴関連、トイレ設備や施設用設備・機器のブース、住宅関連、昇降機、介護予防などのブースに分かれており、医療職種だけでなく一般の参加も可能である。ここでは利用者に商品を知ってもらうため、展示物を見て説明を受けるだけでなく最新機器を実際に使用、体験することができる。利用者視点から考えると、どのような理論・構造であるかより見た目や使用感が重要であるため、バリアフリー展ではこの「体験・体感できる」という点が特徴である。また、体感して生じた疑問点をメーカーにその場で直接聞くこともできるのである。福祉機器の他に自助具なども多数展示・試用できるブースがあるため、生活上困っている身内や知人にも商品の紹介や説明がしやすいよう情報提供もされている。

各々の商品に明確なコンセプトがあり、例えば車いすであれば最軽量のもの、スポーツ用など各コンセプトに沿って素材や構造が、同じ車いすというカテゴリでも大きく違っていた。この他にも、骨折で早期にリハビリテーションが行えることを目的とし

た福祉機器があり、空気圧で体重を軽くし、水中で歩く時のように足にかかる負担を少なくする装置も展示されていた。また、福祉車両では利用者の心理的ストレスを軽減するような空間の確保や、スムーズな乗り降りができる構造といった利用者視点だけでなく、昇降時のスロープの設置やボタンでの操作性が容易であるなど介助者視点でも優れた商品もあり、福祉機器を利用・必要とするすべての人のことが考えられている商品が多くみられた。

3. おわりに

新入社員として研修中の私には施設実習があり福祉機器・用具を使用している人を見る機会があった。しかしそこでは、バリアフリー展で見たような最新機器はおろかその人の身体に不適合な車いすを使用している場面がみられた。

私たち医療福祉に携わる人間は優れたモノを生み出すだけでなく、福祉機器・用具を必要とする人、一人一人に適合した商品を適切に選定しなければならない。それこそが利用者のQ.O.L.向上に繋がることだと感じる。そのためにも、私は商品の真の価値を見出せる目や感性を持った義肢装具士になりたいと思う。

【参考 URL】

1) バリアフリー 2013

<http://barrierfree.jp>

川村義肢株式会社

〒574-0064 大阪府大東市御領 1-12-1